2. 人間と労働

人間と自然との関係

今回の課題

- ✓ 労働の特質を明らかにする
- ✓ 人間にとっての労働の意味を明らかにする
- ✓ 人間と，まわりの自然との関係を明らかにする

今回の内容

- 人間の特徴
- 労働過程
- 労働に関する基本的なカテゴリ

運動としての生命

- 生命一般の特徴
  - 力の制御・統一
  - その最も高度に発展したのが人間
- 労働
  - ➢人間において力を高度に制御・統一する運動
  - 労働において人間は
    - □ 自分を対象から完全に区別し，それを通じて対象を認識せざるをえなくなる。
    - ↓ こうしてまた
    - □ 知識を産出する。

力の自覚的な制御・統一

1. 知識の適用
   - ➢実際に生産する前に頭の中で生産している
2. 意志への従属
   - ➢実際に生産している最中は自分の意志のもとに自分の力を服させる

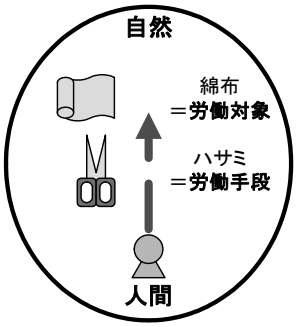
知識と労働

こうして，労働は

1. 知識を生みだし
   - ➢労働の結果としての知識
2. 知識を適用する
   - ➢労働の前提としての知識

労働過程の三契機

1. 労働
2. **労働対象**
3. **労働手段**



労働対象＋労働手段
＝生産手段

労働力と労働

1. 労働力
   ＝労働する能力
   ┆つまり
   自分の肉体的・精神的な力の総体
2. 労働
   ＝労働力の発揮・支出

コストとしての労働（1）

■ 本能的活動はコストではない
- あ，私，いつの間にか息吸ってる…
- いや呼吸を減らせって言われても…

⇕ これにたいして

■ 自覚的活動＝労働はコストになる
- もっと多くのパンが焼きたい
- もっとおいしいパンが焼きたい
  - ➢単位は時間

コストとしての労働（2）

■ 物質代謝の効率的運営
＝コストとしての労働をどうにかして節約すること
＝最小のインプットで
最大量・最高品質のアウトプットを
➢生産力の上昇

新労働と旧労働

トータルコストが問題

1. 新労働
   ➢生産物を生産する場合に，その生産過程で支出されたのが新労働
2. 旧労働
   ➢生産物を生産するのに使われた生産手段を生産する生産過程で行われたのが旧労働

今回のまとめ

❖ 動物は本能的なふるまいしかしないが，人間は自覚的にふるまうことができる
❖ 自覚的なふるまいの発生源が労働
❖ 労働の二つの特徴
  1.知識の適用
  2.意志への従属